



米子市福市考古資料館通信

第9号

2023年6月



企画展1「米子城跡の発掘調査の最新成果と今後の史跡整備」を開催中

福市考古資料館では、5月24日（水）から企画展1「米子城跡の発掘調査の最新成果と今後の史跡整備」を開催しています。

近年、発掘調査を行いました三の丸を中心に、その最新成果を紹介しています。また、米子城跡は今後、市民の学習・憩いの場として史跡整備が行われます。その構想をいち早く紹介します。

会期は、8月28日（月）までとなっております。観覧料は無料ですので、是非、この機会にご観覧ください。



三の丸 米蔵跡



枡形の石垣

- 開催日時 令和5年5月24日（水）～8月28日（月）
- 開館時間 9：30～17：00（最終入館16：30）
- 観覧料 無 料
- 休館日 毎週火曜日 7月17日（月） 8月11日（金）

展示品紹介 木製の農耕具（池ノ内遺跡）

展示室では、池ノ内遺跡から出土した弥生時代後期の田舟を展示しています。

池ノ内遺跡からは、弥生時代後期から古墳時代後期にかけての5面の水田跡が見つかっており、農耕具、建築部材、生活用具などの大量の木製品が出土しています。農耕具は、鋤（すき）、鍬（くわ）、穂積具、えぶり、田下駄、大足、田舟などが出土しています。

この田舟は、弥生時代後期の水田跡から出土したもので、長さ134cm、幅70cmを測ります。写真の右側が舟首で縄を掛ける2つの穴があり、その穴の周辺は縄ズレにより摩耗しています。また、舟尾の裏面には手を掛ける2つの穴があります。全体に薄手で槽（ふね）も9cmと浅めにつくられており、軽量化を図っているものと考えられます。

田舟とは、水稻作に用いる農具の一つです。弥生時代の水田は湿田でしたので、植え付ける苗や、刈り取った稲などを運搬するのに用いました。縄をつけて引っ張ったり、把手（とって）をつけて押して使用していました。

現在でも、湿田で合成樹脂製の田舟が使われているところがあります。材質は変わりましたが、弥生時代以来、使用され続けている道具の一つです。



田舟

福市遺跡の四季

福市史跡公園には、多くのツツジが植えられています。ところで、「米子市の木」はツツジというのはご存じだったでしょうか。

近年は、コロナウイルスの影響で中止となっていた「福市ツツジまつり」が4年ぶりに開催され、多くの参加者でたいへん賑わいました。

また、この時期は、ツツジの鑑賞に来られる方や、小学校や高校の遠足で、多くの方が公園に訪れられます。



福市史跡公園のツツジ

発行者 米子市福市考古資料館（指定管理者 一財・米子市文化財団）

住所 〒683-0011 米子市福市461-20番地

電話・fax 0859-26-3784（同番号）

休館日 火曜日・祝祭日の翌日・年末年始（12/29～1/3）